

研究所だより

管 剛文

2012年5月21日、みなさんは世紀の天体ショー〈金環食〉を楽しまれたでしょうか？

東南北部、関東、東海、近畿、四国や九州南部など日本の人口集中しているエリアで、この日、金環食を楽しむ〈チャンス〉が与えられました。ただし、天気次第でと条件が付きまします。天体観測は子供のころから好きで、自分の住むところで見ることのできる〈金環食〉をとっても楽しみにしており、日食メガネやカメラも用意して準備万端。1週間前には、実際の太陽でテスト撮影もする念の入りようです。あとは天気のみです。

前日の天気予報では雲も多いがなんとか晴れるのではとの予想。普段より早く起きて空を見ると、薄曇りではありましたが、なんとか日差しがあって観測できそうな状況でした。

ところが、太陽がかけ始める6時20分ぐらいになると、結構しっかりとした雲がさーっとかかってきました。空全体では雲のない青空が見えているところもあるのに、太陽のあるあたりだけ、雲がかかっています。風がある程度吹いていたので、雲が流れてくれれば、金環食の時間には見ることができるかもと最後の期待です。

でも、太陽の光は強烈ですね。薄い雲がフィルターようになって光を通し、欠けている様子がよくわかります。カメラも減



光用のフィルターを付けていましたが、取り外しても撮影することができました。

時間とともにじわじわと巨大な太陽を覆い隠す月ではありましたが、若干暗くなったと感じた程度で地上は明るいまま。

自分の住む場所で金環日食をみることでできて感激でした。金環食の時間帯には近所でも歓声があがるなど、大勢の人が楽しめた自然のショーでした。

でも、誰がどうやって「ここがこの時間に金環食になる」って計算するのでしょうか？

日食は数千年前から予測されていたようですが、昔は今のような宇宙の概念はないでしょうから、経験則から日食を割り出していたのかもしれませんが。いずれにしても、自然の神秘と、それを解明する人間の能力、どちらもすごいと感じた天体ショーでした。